



「+d」戦略を支える情報システム共通基盤を協創

新しい価値創造に向けた「+d」の取り組みを推進する株式会社NTTドコモ（以下、NTTドコモ）は、ビジネス拡大と競争力強化に貢献するITシステム基盤を実現するため、日立をSIパートナーに選定。仮想化インフラと運用の標準化・自動化により、ビジネススピードに追従する新サービスを適正なコストで迅速に創出できる情報システムの基盤構築を実現しました。

■ イノベーションを支えるITインフラを強化したい

国内最大手の移動体通信キャリアとして知られるNTTドコモ。同社は現在、モバイル通信事業に加え、コンテンツ・コマース、金融・決済、ライフスタイルといったスマートライフ事業を精力的に展開しながら、dポイント会員約7,000万人を軸とした事業運営への変革と、5G（第5世代移動通信システム）によるお客さまへの価値・感動の創出に取り組んでいます。

その幅広い事業領域のイノベーションをITで支える情報システムにおけるIaaS^{※1}プラットフォームとして、2018年4月から稼働を開始したのが「ドコモ情報システム共通基盤（CAMPUS^{※2}）」です。

「これから当社が国内外で幅広く新サービスを創出していくためには、現代のビジネススピードに追従するシステム構築の即応性と、よりビジネス拡大に貢献できるITシステム投資へのシフトが重要な要件となります。しかし従来、顧客システムや料金システム、ネットワーク情報システムといった基幹システムのインフラは、システムごとにベスト・オブ・ブリードで構築されていたため、即応性とコスト構造に課題がありました。そこで2017年1月から、現状のインフラ・運用業務を徹底的に調査し、これらの問題をクラウド技術で解決する新たな共通基盤構築プロジェクトを立ち上げたのです」と振り返るのは、情報システム部 IT基盤戦略担当 担当部長 井上 晶記氏です。

「仮想化機能の導入」「基盤のIA化と統合」「インフラ・運用業務の標準化・自動化」を骨子としたRFI^{※3}に対応できるベンダーの中から、SIパートナーに選ばれたのが日立です。その理由を、情報システム部 料金システム担当 担当課長の川崎 大輔氏は「当社の要望を高いレベルで満たした提案、プロジェクト推進体制などの総合力を評価した結果です」と説明します。

※1 Infrastructure as a Service

※2 Cloud AutoMated Platform Unifying Systems

※3 Request For Information

■ 運用業務の自動化・自営化を追求

共通基盤の構築では、もう1つ大きな要件がありました。「完成した基盤を子会社のドコモ・システムズで自律的に運用していくことです。これまで上位アプリケーションの監視・運用はドコモ・システムズに、インフラは構築から維持運用まで各システムごとに異なるベンダーに任せていました。しかしミッションクリティカルな基幹システムでは、数秒のシステムダウンやレスポンス遅延が、お客さまにダイレクトに影響を与えてしまう可能性があり、運用品質が重要なポイントになります。共通基盤を高レベルに安定稼働させていくには、これらを一体的に監視・運用していく必要があると考えたのです。そこで、構築・運用ルールの標準化・自動化を進めるための手順書作成や品質担保が重要となります



株式会社NTTドコモ

<https://www.nttdocomo.co.jp/>

所在地 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー
 営業開始日 1992年7月1日
 資本金 9,496億7,950万円 (2017年3月31日現在)
 従業員数 7,767名 (NTTドコモグループ27,464名)
 (2018年3月31日現在)
 事業内容 通信事業、スマートライフ事業、その他の事業

が、この点についても、日立さんには過去のノウハウを本プロジェクトに展開しながら支援してもらいました」と、情報システム部 IT基盤戦略担当 担当課長の加藤 寛氏は語ります。

日立は、NTTドコモ、ドコモ・システムズの3社によるプロジェクト体制のもと、VMware vSphere®、Cisco ACI™、Hitachi Virtual Storage Platformといったサーバ・ネットワーク・ストレージを柔軟に仮想統合する先進技術とノウハウを活用し、新たな共通基盤をNTTドコモのデータセンターとBCP※4サイトの2拠点に構築。仮想化コントローラを活用することで、設備担当者が直感的かつ簡易なGUI操作で統合管理できる環境を作り上げ、2018年4月の本番稼働につなげました。

「プロジェクトを推進する過程で、“こんなこともしたい、あれもできないか”と、当初はなかったアイデアがいくつも出てきました。仕様追加は納期遅延・品質劣化のトラブル発生のリスクもあるなかで、日立さんは一生懸命われわれの要望をくみとり、最大限いいものを作り上げていこうというスタンスで協力してくれました。そこはとてもありがたかったですね」と井上氏は笑顔で語ります。

※4 Business Continuity Plan

■ 新サービスの創出に注力できる基盤を確立

「IaaS化された共通基盤 CAMPUSによって、サーバ増設やリソース追加の時間が短縮され、ビジネス要求に柔軟に対応できるようになりました。例えばサーバの調達や構築に従来なら2か月ほどかかっていたのが、各種設定作業の標準化により、早いものではわずか2日で完了します。



株式会社NTTドコモ

井上 晶記 氏

川崎 大輔 氏

鈴木 潤一 氏

加藤 寛 氏

まだ段階的な移行を始めたばかりですが、最終的なシステム運用のトータルコストは今までより3割程度削減できるでしょう」と評価するのは、情報システム部 IT基盤戦略担当 主査の鈴木 潤一氏です。各種設定作業や運用の自動化をさらに推し進めるため、今後はAI※5を活用したシステム監視と運用改善に取り組むことも検討されています。

「スピード感とコスト効率の高い共通基盤 CAMPUSを構築したことで、新サービスの創出に注力できるコスト構造の変革と、ドコモグループ一体となった運用品質の向上を、共に実現するスタートラインに立てたと考えています。基盤をさらに進化させ、システム運用者の働き方改革をさらに推進していくために、これからも日立さんには、新技術を活用した新たな提案を期待しています」と井上氏は語ります。

次世代に向けた新しい価値の協創と、5Gによる豊かな未来づくりをめざすNTTドコモ。そのイノベーションを担うITシステムの進化を、これからも日立は力強く支援していきます。

※5 Artificial Intelligence

お問い合わせ先

(株)日立製作所 社会システム事業部
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/society/>



情報提供サイト

<https://www.hitachi.co.jp/cloud/>

